

土岐市の 10年先の みちしるべ

第七次土岐市総合計画 概要版

令和8(2026)年度

▼
令和17(2035)年度



土岐

10年後 あなたは何をしていますか？

- ・生まれた子どもは小学4年生になっています
- ・小学4年生は大学生・社会人となり、20歳を迎えます
- ・20歳の青年は30歳となり、仕事や家庭など人生の方向性が定まってきます

10年という期間には、学び、出会い、多様な経験があり、その中で多くの選択と挑戦をしていくことで、次のステップを築いていきます
あなたは10年後、何をしているのでしょうか？



10年後 まちはどうなっているのでしょうか？

10年前と比べると土岐市のまちは大きく変わっています

- ・新しい病院が完成し、アクセス道路も整備されました
- ・市役所が新しくなり、イベントや交流の場として活用されています
- ・ショッピングモールが開業し、市内外から多くの人を訪れています

10年間で人が成長するようにまちも進化していきます

まちが進化するためには皆さんの力が必要です

次の世代へ、進化したまちを引き継いでいけるようまちと向き合ってみましょう！



土岐市立総合病院



土岐市役所旧庁舎



中山鉦山



公立東濃中部医療センター



土岐市役所新庁舎



イオンモール土岐



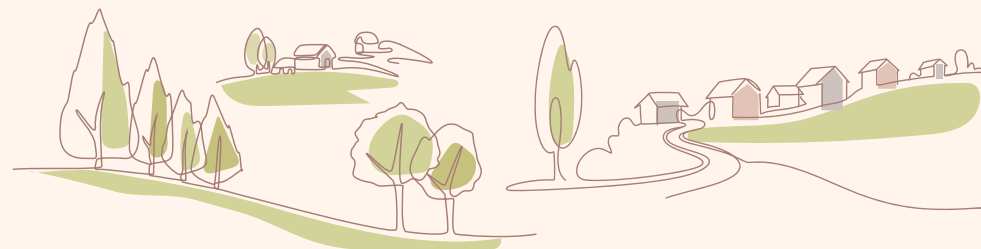
10年後に向けたまちづくりを進めるため、「こんなまちになっているといいな」といった土岐市の目指す姿を将来都市像として決めました

将来都市像

人を育み 伝統を紡ぎいきいき暮らせる陶のまち^{とう}

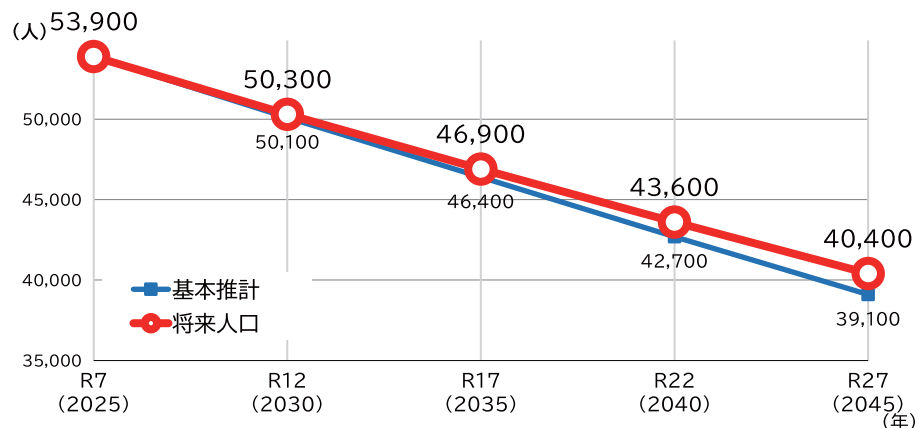
土岐市に関わる全ての人々が幸せに暮らし続けることができ、生産量日本一で1400年以上の歴史がある陶磁器産業をはじめ、歴史や文化に根差した伝統を守り、市民とともに未来に向けて持続可能なまちを目指します

幸せに暮らすことができ、持続可能なまちを目指すため数値目標を設定しました



基本指標①

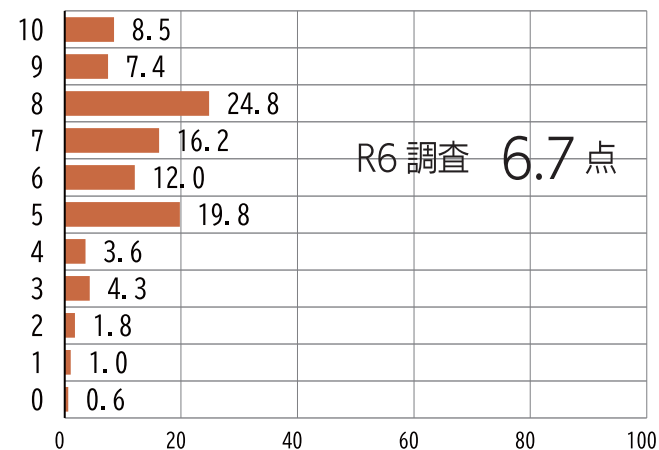
人口 令和17(2035)年 **46,900**人



人口減少は現在の人口構造からやむを得ない状況ですが、少子化対策や子育て世帯の支援、転入促進及び転出抑制の施策を重点的に実施し、持続可能なまちを目指します

基本指標②

市民幸福度指標^{*} **7**点



土岐市に暮らす市民の幸福度を指標として設定し、幸福度をさらに上げられるよう持続可能なまちを目指します

10年後の目指すまちの姿を達成するために、
土岐市では6つの重点施策を中心に、取り組みを進めていきます

重点施策①

人口減少・少子高齢化の抑制

人口減少は労働力の低下や税収の減少につながるため、
こどもを産み育てやすい環境の創出や
移住者の増加により人口減少を抑制します

市民の声

子育て世代の助成に
力を入れてほしい

不妊治療など
もっと手厚い補助が
あるといい

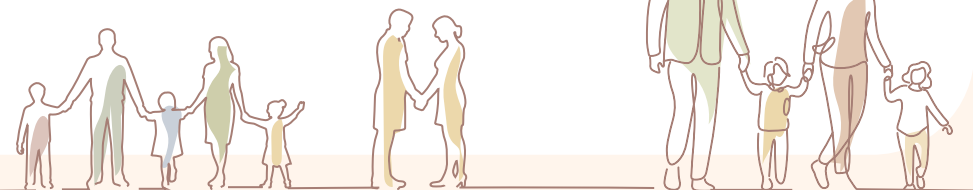
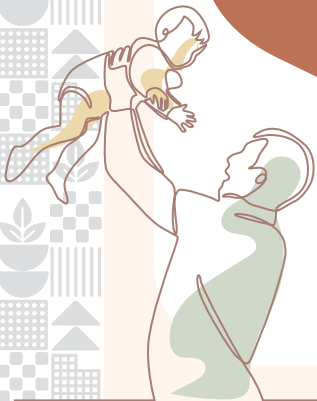
今の若者には
出会いの場が
少ないのでは？

きめ細かな
保育サービスを
提供してほしい

移住者のための住宅を
提供するサービスが
あってもよい

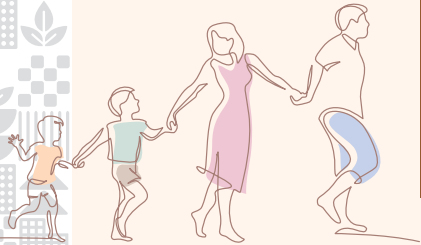
そのための取組

- 結婚を希望する若者を対象に出会いの場を創出します
- ライフデザインを考える機会を提供し、将来設計に対する意識の向上に取り組みます
- こどもを産みたいときに安心して妊娠・出産できる環境を整備します
- こどもたちが安全安心に過ごすことのできる教育・保育環境を整備します
- すべてのこどもが自分の目標に向かって努力できるよう経済的な支援を実施します
- 移住イベントや空き家バンク制度を活用し、駅周辺をはじめとした区域への移住定住を促進します



重点施策②

まちなかのにぎわい再生



商店街の活気が減少しており、
駅周辺でのにぎわいも喪失してきて
いるため、まちなかの活性化と魅力ある
まちづくりを進めます

市民の声

補助金等を出して駅周辺の出店を促しては

駅周辺にフリースペース、イベント等
人が集まる場所にしてほしい

人口減少の中、駅周辺を
中心に開発するのもよい



そのための取組

- 駅周辺で人の交流が生まれる空間や仕組みを作り、まちなかの活性化を図ります
- 地域の事業者として定着してもらえるよう創業者の研修やフォローアップ等のサポートを行います
- 人口密度を維持しつつ、必要な生活サービス機能が維持されるエリアを形成します
- 駅周辺の空地等を有効活用しながら都市機能を誘導します

重点施策③

魅力ある雇用・労働環境

後継者不足や若年層の流出が続いているため、魅力的な
職場環境の提供や後継者の育成により、流出抑制に
取り組みます

市民の声

まだまだ働きながら子育てをする環境は不十分

今後も海外からの労働者が
増えることを考えると対策が必要

若者にも受け入れられる陶磁器
産業にしていくことが大切

そのための取組

- だれもが働きやすい職場環境づくりや市内企業と求職者がマッチングできる機会を提供します
- 市内への企業立地や設備投資を支援します
- 伝統のある美濃焼の生産技術を次世代に継承していけるよう取り組みます
- 外国人労働者を雇い入れる企業の受入体制の整備を推進します



重点施策④ 人を惹きつけるまちづくり

土岐市の魅力が十二分に発揮されるよう地域資源を活用し、観光客と地域住民の交流を深め、魅力あるまちづくりを進めます

市民の声

土岐市の文化財をもっと活用してほしい

土岐市で化石が発掘されていたなんて知らなかった

自然がいっぱいあるので、自然を活かしたまちづくりを!

そのための取組

- 文化財保存活用拠点(新博物館)を整備して、土岐市の文化財を適切に保存・公開します
- こどもをはじめ、市民のみなさんにもっと土岐市のことを好きになってもらえるようなイベントなどを行います
- 市内のスポットを周遊できるようなモデルルートを創出します
- 自然や温泉などを活用し、「見る」だけでなく、交流を重視した観光(ニューツーリズム)を開発します



重点施策⑤ 安全・安心に暮らせるまちづくり

防災対策や災害時の減災対策を進めるとともに、年齢を重ねても移動手段が確保され、安心して住み続けられるまちづくりを進めます

市民の声

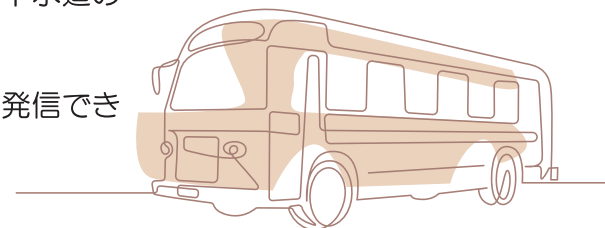
バスの本数やタクシーの台数が少なく、車に乗れなくなると移動に困る

いつでも安全な水を使えるようにしてほしい

川の近くに住んでるとゲリラ豪雨のときに不安

そのための取組

- ニーズに応じた路線やダイヤ編成など公共交通ネットワークの見直しを行います
- AIデマンド交通や自動運転バスなど新たなモビリティの導入検討や社会実験を行います
- 災害時でも継続的に水が供給できるよう水道や下水道の耐震化の工事を行います
- 災害時に適切な情報を収集し、市民へ速やかに発信できる体制づくりを進めます



重点施策⑥ 『生きる力』を育む教育

子どもを取り巻く環境や学校の課題は多様化していますが、学ぶ楽しさや生きる力を育む教育を推進し、未来を担う人材を育成します

市民の声

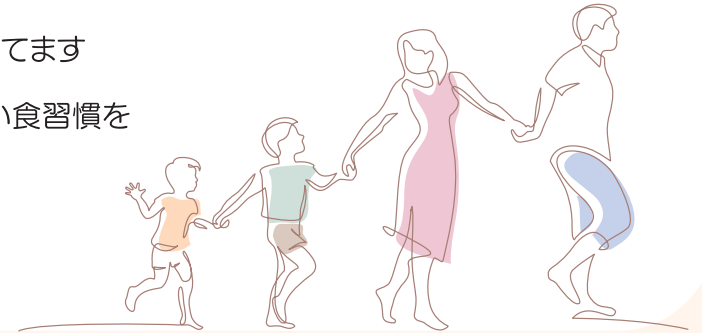
課外授業や地域イベント等子どもが体験できる機会を多く

小中学生が地域の歴史・産業を知る機会・時間を増やしてほしい

こどもの食育に力を入れてほしい

そのための取組

- 社会を生き抜く資質・能力を育むために、児童生徒一人ひとりにきめ細かな支援を行います
- 夢や希望、道徳性、豊かな感性を育むための体験活動を行います
- 地域と一体となって地域の児童生徒を育てます
- 児童生徒が健康で過ごせるよう望ましい食習慣を身に付けられるよう取り組みます



6つの重点施策のほかにも市民生活に関わるあらゆる分野において体系的に取り組を進めます

将来都市像

人を育み 伝統を紡ぎ いきいき暮らせる陶のまち

基本目標

支え合い、誰もが健やかで安心して暮らせるまち

【健康・福祉】

活気に満ち文化を育み豊かさを創造するまち

【産業・観光・文化】

学びや協働を通して人や地域を育むまち

【学習・スポーツ・市民活動】

暮らしの基盤が整い快適で住みやすいまち

【都市基盤】

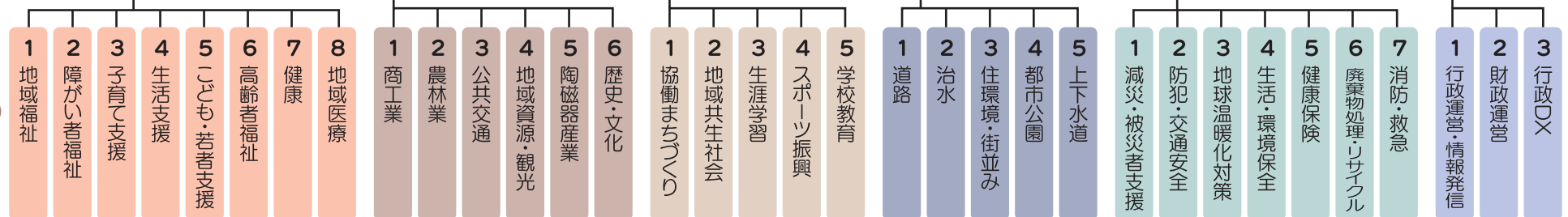
環境と調和した持続可能で安全安心に暮らせるまち

【環境・安全】

未来へつながる都市経営を行うまち

【行財政運営・情報発信】

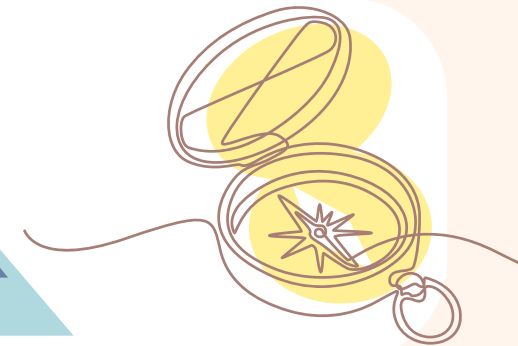
施策分類



10年後の土岐市の目指す姿を達成するための土岐市の取組をまとめたものが「総合計画」です

総合計画の構成・計画期間

総合計画は、まちづくりについての考え方や将来像、方向性を示す基本構想と、基本構想を達成するための具体的な施策を整理した実施計画で構成されます。基本構想は2026年から2035年までの10年間、実施計画は3年間とし、基本構想とのずれが生じないように毎年見直しを行います。



総合計画策定の経過

総合計画は、アンケートやワークショップでいただいた市民の皆さんの声を基に素案を作成し、総合計画審議会での議論を経て策定しました。

①市民意識調査

市の施策の満足度など1,263人からの回答を総合計画の施策・事業の検討に活用しました。

②ウェルビーイングアンケート

市民幸福度など680人からの回答により土岐市のウェルビーイング指標を測定しました。

③市民懇談会

市民の求める市の将来像の実現に必要な取組などを考えるワークショップを2回実施しました。

④総合計画審議会

福祉・教育・商工業などの団体の代表者や公募市民からなる審議会を7回開催し、意見を計画に反映しました。

より良いまちづくりのため、今後も皆さんの意見をお待ちしています。



推進体制

多方面からの視点や考え方を取り入れながら総合計画を推進します。

①PDCAサイクルによる進行管理

定期的に評価、見直しを行いながら計画を推進します。

②事業の選択と集中

エビデンス(根拠)となるデータに基づき、真に必要な施策や事業を推進します。

③SDGsの理念

市民・企業と地域課題を共有するためSDGsの理念や考え方を計画の推進に取り入れます。

もっと詳しく総合計画のことを知りたい方は

こちらへ

